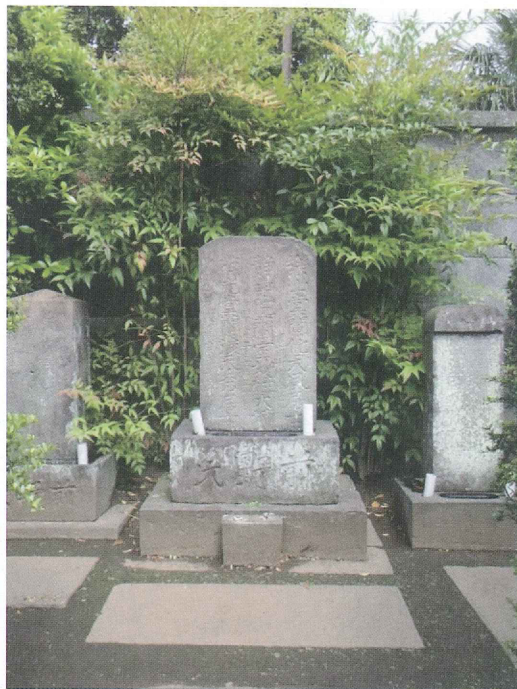


前野良澤の墓



〔登録年月日〕昭和六二年三月三〇日  
〔種別〕史跡(墓・碑)  
〔名称〕前野良澤の墓  
〔点数〕一基  
〔所有者等〕個人  
〔所在地等〕梅里一四―二四(慶安寺内)

## 前野良澤の墓

総高一七七cm、安山岩の隅丸角柱型の墓で、台石は二段である。正面の向って右側に良澤（法名楽山堂蘭化天風居士）、真中に妻の珉子、左側に息子の良庵の法名と没年を刻んでいる。また、右側面には長女、左側面には孫娘の法名がある。

前野良澤は享保八年（一七二三）、豊前国（大分県）に生れた。はじめ古医方を学んだが、のち蘭学を志し四七歳になってからオランダ語修得の道に入っている。明和八年（一七七二）、杉田玄白らと「ターヘル・アナトミア」の翻訳を行ったことはつとに知られているが、その訳業は良澤のオランダ語の知識をもとに進められたもので、良澤はその中心人物であった。この点から『解体新書』は良澤の訳書といっても過言ではない。

良澤はその他にも多くの訳書や著作をあらわしたが、享和三年（一八〇三）に八〇歳で没し、当時は下谷池ノ端（台東区）にあった慶安寺に葬られたのである。

この墓は蘭学勃興の気運を推進し、近世医学上のみならず、我国文化史上の功労者のものとして、文化的価値の高いものである。

### 【文化財所在地】

